
一人と一匹の幻想物語（仮名）

深紅6

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

一人と一匹の幻想物語（仮名）

【Nコード】

N69620

【作者名】

深紅6

【あらすじ】

ある所に、普通の平凡な少年と、普通の犬が、普通に暮らしていました

しかしある日、平凡な少年は、死んでしまいました。

その横には普通の犬も一緒でした

そんな一人と一匹が目覚めたとき見たのは……

目をあけると俺は・・・

俺は死んだ・・・

理由は・・・・・・・・いや今はそんなことどうでもいい

ここはどこだ？・・・真っ暗だ

・・・怖い、一人は怖い・・・だれか、誰かいらないのか・・・

あいつもいないのか、一人は寂しい・・・

助けて・・・誰か・・・

フウ・・・

そして俺は目を開けた

最初に俺の目に映ったのは・・・

大きな一本の木だった

周りを見渡すと、その木のあたりを囲むように木が生えていた

「（ここは・・・どこ？）」

ともかく現状をわかりたい俺は、立とうした・・・が

「（あれ？たてな・・・）」

俺は自分の足を見て、驚いた

「（ちょっとまさか、これって）」

どこからどう見ても犬の足だった

「（なぜこうなった！？）」

自分の姿を見てみると

白と黒の混じったような毛に、長い尻尾

「（・・・フウ？）」

その姿は、大きさは違うが、俺の飼っていた犬、フウにそっくりだった

「（いったいどうなってるんだよ）」

なにがなんだかわからない、状況判断も微妙、わかったことは

「（俺が人ではなく、犬になっているということ、

そして、ここは俺の知ってるところとは別ということ）」

なんで、ここが俺の知っている場所と違うかということ

こんな場所は俺は来たことも見たこともないからだ

「（状況判断はこんなもんだな・・・それにしても

やっぱりしゃべれないみたいだな俺）」

喋ろうとしても、声が出ない、なんとなくうなり声みたいのは出るけど

「（さてと、どうするか・・・）」

今の所なにもわからない、

第一に場所、さっきも考えてたが、ここはやっぱり、
ぜんぜん知らない場所だ。

第二、食料・・・、どうしよう、今俺、犬だし、手使えないじゃん

果物とかそんなの生えてるかどうかもわからないけど、

生えてても取れない、となると・・・

動物にかぶりつき？

オレオマエマルカジリ？

・・・かんべんしてくれ（泣

まあともかく、ここがどこなのか調べるのが先決だな
食料は後から考えよう・・・

目をあけると俺は・・・（後書き）

はじめまして、深紅6と申します

この物語は、少年視点での物語、そして、犬の視点での物語に分かれます

こちらは、少年の視点です

さて、私はここでは、次回予告と状況を書いていこう思っております

まず状況ですが、少年は目が覚めたら、知らない場所で、犬になっていた

しかも大きさは違うがその姿は、自分の飼い犬とそっくりだった
落ち着いたところで、自分の今の問題、ここはどこか、そして飯！！

次回！！少年視点【ちよっ！？オレただの犬じゃなかったわけ！？】

さて、次いこー

目をあけると私は

私は死んだ

理由は・・・私の飼い主を追いかけるため

なのに

今私は真っ暗な場所に一人

一人ぼっち、寂しい、怖い

怖い、寂しい、

はやく、きてください

晃にい！！

そして私は目を開けた

そして最初に見たものは・・・

ただひたすら青い湖だった

周りを見渡すと、湖を囲むように、木が生えていた

「（ここは・・・どこですか？）」

状況判断をするために私は歩こうとしました・・・が

「（あれ？なんか歩きづら・・・い？）」

私は自分の手を見て驚きました

「（これってもしかして・・・）」

どこから、どうみても、人間の手でした

「どうしてこうなったんですか!？」

動きが、がたがたながらも湖の水面で自分の姿を見てみると
黒い髪の毛、黒い瞳、人間の口と鼻と耳、

「これって、晃にいい？」

その姿は、どこことなく、違う感じがしますが、私の飼い主、晃にそ
っくりでした

「いったいどうなってるんですか」

なにがなんだかわからない、状況判断も微妙ながら、わかったのは

「私が、犬ではなく、人になっていること

この場所が私の知っている場所ではないこと」

どうして、この場所が私の知っている場所と違うかというところこんな場所散歩に連れてきてもらったことがないのと、匂いがぜんぜん違うからです

「今のところできる状況判断はこのぐらいですね、それにしても私、人の言葉が喋れるみたいです」

声を出すと、いつもの鳴き声ではなく、人の言葉が出ました

「さて、どうしましょうか」

第一に、ここはどこか、さっきも言っていた気がしますが、ぜんぜん知らない場所です

第二に、晁には、どこかにいるか・・・え？食料じゃないの？そんなことより、自分の主のほうが大事です！！
あの人がいないと寂しいし、
それ以前に・・・

つまらないです！！

ともかく、まずは・・・歩く練習から始めます・・・

だって二本足ってあるきづらいんです（泣

目をあけると私は（後書き）

こちらは犬、フウの視点です

・・・えっ？手抜き？・・・

アハハハ；、いや手を抜いたわけではないですよ。

単に、プロローグみたいにかこうとしたらこうなったただけですよ（汗

・・・すみません手を抜きました、次からはしめさんので、許してください

さて！じゃあ前の話と同じで、状況と次回予告をしますね

状況：犬は目を覚ますと、ぜんぜん知らない場所で人間になっていた
しかも姿は飼い主にそっくりだった

少し落ち着いたところで、自分の今の問題、ここはどこか、そして
飼い主はどこ！

次回：「あれ？私、ただの人間じゃなかったの？」

さて・・・石を投げられる前にとんずらだ！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6962o/>

一人と一匹の幻想物語（仮名）

2010年11月4日01時20分発行